

石高神社示報

第十号

発行日 平成四年十二月十五日

発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市円山八五三 石高神社

なにとぞ御協力下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、御寄進の方々はすべて奉賀帳に記入し、永く当社に保存致します。また、一万円以上の御寄進につきましては、当分の間御芳名を拝殿に掲示させていただきますので御覧下さい。

あとさきになりましたが、すでに御寄進をいただきました方々には厚く御礼申し上げます。

付記 今回の稻荷神社の修理では、屋根を銅板葺きに致します。つきましては、すでに工事は完了致しました。また、今回の修理計画とは別に、昨年の台風で全壊しました金祐稻荷の社を新調しましたことを申し添えておきます。

こうした修理に関わる費用は、氏子の皆様方の御寄進に

よるほかはありません。つきましては、本年秋祭り前から趣意書を配布致し、御寄進のお願い

を申し上げておりますので、なにと

ぞよろしくお願ひ申しあげます。ま

た、地区により総代や世話をしてくれ

ださる方のおられない町内では、趣

意書の配布あるいはこの社報でのお

願いだけになるかもしませんが、

修理について

本年も余すところあと僅かとなりましたが、氏子の皆様もあわただしい年末をお迎えの事と拝察致します。

さて、昨年来より三度の総代会で話し合いました結果、

この度稻荷神社等の修理を行うことに決定致しました。今回の修理は末社の稻荷神社の全面修理のほか、荒神社、金磨宮、隨身門の一部、表門の西側燈籠の傾き、表参道玉垣の一部応急修理とします。燈籠の傾きと玉垣の応急修理につきましては、すでに工事は完了致しました。また、今回の修理計画とは別に、昨年の台風で全壊しました金祐稻荷の社を新調しましたことを申し添えておきます。

こうした修理に関わる費用は、氏子の皆様方の御寄進によるほかはありません。つきましては、本年秋祭り前から趣意書を配布致し、御寄進のお願い

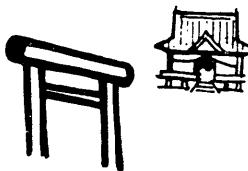
石高神社略記

祭神や由緒について今までにも紹介したことがあります

が、年月もたちましたのでまとめて簡単に紹介します。

一、御祭神

当社は大己貴命（おおなむちのみこと）を主祭神に妃の須勢理姫命（すせりひめのみこと）および仲哀天皇・神功皇后・応神天皇をお祀りしています。大己貴命は出雲神話の主役であり、「因幡の白兔」に登場する大国主命として有名です。仲哀天皇以下は八幡宮と称される神社の御祭神



です。

二、由緒来歴

当社の創立年月日はわかりませんが、千年ほど前の備前國神名帳に正三位石高明神と載っています。社伝によると今の大山から北手にある高倉山の嶺上に大己貴命を祀る石高神社があり、西の岩坪に須勢理姫命を祀る八幡宮がありました。この両社を天和三年（1683年）に現在の地に合祀し、岩坪八幡宮と称して尊敬されていました。明治四年に旧号の石高神社に改称し、幡多郷の總鎮守產土神（うぶすなのかみ）と定められ、大正三年に村社になりました。

現在も旧幡多郷の赤田、清水、藤原、高屋、関、沢田、湊円山、山崎それに福泊西半分の氏神として崇敬されています。

三、年間行事

正月の一月一日は午前零時より歳旦祭を行い、三が日の昼間に新年祈祷を行います。

一月十五日には正月のしめ飾りを焼くどんど祭と古い御神札を焼く古札焼却祭を行います。好天の場合十時頃から始めるので、それまでにご持参ください。

一月一日は厄除祭の日ですが、厄祓いをされる方は正月三が日または一月中の休祭日の午前中にお参りください。

五月中旬の日曜日

の午前九時半から春祭りの祭典を行い、五穀豊穣・氏子中安全を祈願します。

七月二十一日

の晩は夏祭りの輪ぐりです。年の前半の罪・汚れを祓い、疫病から身を守るお祭りです。

ひとがたに家族の名前などを書いてお参りください。

十月二日から五日は秋祭りです。このうち三日の晩が氏参り、五日の午前九時半から祭典を行います。

十一月十五日

は七五三詣の日です。

末社紹介

⑨

石高神社には、八つの末社と五つの摂社があります。順次紹介してきましたが、今回は修理対象になつている三つの末社を再度簡単に紹介します。

稻荷神社は稻をはじめとしたすべての食物の神様である倉稻魂命（うかのみたまのみこと）をお祀りしています。本殿の東側に鎮座しており、社の造りも一番大きく、細工も立派で由緒ある末社です。江戸時代の文献にも石高神社（当時は八幡宮）のところに「末社稻荷」と載っています。

荒神社は一般に「こうじんさま」として広く親しまれ、信仰されている神社で、社殿の東側にあります。当社では、大山咋神（おおやまくいのかみ）と火雷神（かづちのかみ）をお祀りしており、竈の神様と山の神様としての性格が強いのですが、一口には言い表せない神社です。金磨宮は本殿の東奥にあり、通称「かなまろさま」とよばれている性の神様です。性に関する諸々の事に御利益があるため、昔は多くの参詣者があり、木製の陽物が多く奉納されています。民俗学的には有名で全国に紹介されています。